



《伝統文化・神楽・祭・イベント》

① 岩戸神楽(伝法寺神楽)

(国指定重要無形民俗文化財)

(岩戸見神社岩戸神楽・岩戸楽伝法寺保存会)

分類／伝統文化 自治会／伝法寺 住所／伝承地：築上町伝法寺

主な奉納神社：岩戸見神社

宇都宮氏が入国した当初、岩戸見神社は現在の位置よりも山の上部にありました。建久6年(1195)に現在の場所(盛り土)に社殿が遷されて以来、八百有余年、岩戸見神社では祭礼に神楽が奉納されてきました。

明治維新後、神職演舞禁止令に伴う社家神楽の禁止により神楽が断絶することを憂えた当時の宮司、熊谷房重氏が、他数名の神官と共に、氏子へ神楽を伝授しました。これが今日、築上町に伝わる神楽の礎となっています。伝法寺では神楽を継承して以来、一度も中断することなく現在まで受け継いできました。明治末期から昭和初期までが最も盛り上がった時期であり、北九州市、田川市郡、行橋市など、各地で招かれたといえます。昭和12年には、台湾台北神社に奉納したこともあります。地割、三神舞の軽妙なやりとりが見どころで、岩戸見神社は、上城井地区の本宮として非常に大切に信仰されています。



② 岩戸楽(伝法寺) 町指定無形民俗文化財 (岩戸見神社岩戸神楽・岩戸楽伝法寺保存会)

分類／伝統文化 自治会／伝法寺

住所／伝承地: 築上町伝法寺 主な奉納神社: 岩戸見神社

岩戸見神社の岩戸楽は、建久6年(1195)に、社殿を現在の宮山にお移しする御遷座祭で先導した道楽が始まりとされています。演目の「岩戸楽」は、毎年、神幸祭で神輿の先導をつとめ、神輿を一時的に停めておく「お旅所」での「お着き」「お立ち」の時に、天下泰平・五穀豊穡を願う舞楽が打たれます。出発する際の「御立ちの楽」、到着した際の「御着きの楽」など、伝法寺独特の神楽が残されています。構成は囃子が3人で、円形の中央で笛と岩戸楽の口上を唱えます。舞方は総勢15名程度で太鼓等を打っています。

大人の囃子方は円陣の中で笛と口上を奏上します。子供の舞方は円陣を組みながら、鉦打ち、締太鼓を叩く花楽、頭楽が2人で、衣装は青布の鉢巻、白の浄衣に草鞋、へらの繊維の腰簍、5本の御幣飾りを背中に立てて舞います。



③ 白い彼岸花まつり

分類／祭 自治会／伝法寺

住所／築上町大字伝法寺 1357

築上町の伝法寺(でんぽうじ)地区にある不老山正光寺境内一帯や伝法寺公園では、9月中旬になると、約 10,000 本の白い彼岸花が楽しめます。地域のとある方の(中国土産で)白い彼岸花を植えたのが始まりで、その後徐々に増えていき、昨今では婦人会など地域をあげて手入れをしています。

周辺は深い木々に囲まれているため、白と緑のコントラストも美しく、また、赤とは趣が異なるオフホワイトの彼岸花は、貴婦人のような佇まいで凛と咲き誇っています。

見頃である彼岸の時期には「白い彼岸花まつり」が開催され、多くの見物客で賑わいます。



④ 智恵の文殊大祭

分類／祭 自治会／伝法寺

住所／築上町大字伝法寺 1357 正光寺

毎年2月25日、26日の2日間、「文殊菩薩」の年に1度のご開帳日に行われるお祭りです。「文殊菩薩」はあらゆる教えを説く仏として智恵をつかさどる菩薩と言われています。

智恵の文殊大祭の開催日は(日程を変更した年もありますが)、25日が文殊菩薩の命日である事に由来していると云われ、当日は文殊菩薩智恵餅・智恵飴・智恵水も販売されます。※時期的に、学業成就、合格祈願などを目的に参拝される方で賑わいます。その他にも、地元食材を使った食べ物や特産品などが勢揃いし、食事や買い物を楽しむ事もできます。



文殊菩薩智恵餅・智恵飴・智恵水

【武者行列】

智恵の文殊大祭にあわせて、初日の昼ごろから「武者行列」が行われます。この武者行列は平成元年から行われており、文殊会や伝法寺自治会が主体となって行っていますが、現在は(人手不足等により)築上西高校や上城井小学校、西日本工業大学や自衛隊、警察署の方々も参加しています。

山里の景色をバックに多数の武者や女官の姿で練り歩く勇壮華麗な様子は圧巻で、その姿を一目見ようとカメラを抱えた地域内外の多くの人々が訪れます。宇都宮氏の歴史に想いを馳せながら、時代絵巻さながらの本格的な武者行列を見られる一年に一度の貴重な機会であり、タイムスリップしたかのような気分が味わえます。



⑤ 午まつり

分類／祭 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺 1339 岩戸見神社

午まつりは、12月初めの午の日に「つなぎ馬の絵馬」を一般に御開帳し、祭典を岩戸見神社で行っています。絵馬には霊が宿っているので、祀るように言われたのが始まりではないかと伝えられています。一説には作者不明とされているものの、絵馬を描いたのは求菩提山の位の高い僧侶ではないかと地域では云われています。1年の節目の数と言われる42の桐の入れ物にご飯を盛ったお御供(おごく)を用いて、現在も続いているそうです。

⑥ 流鏝馬祭(岩戸見神社)

分類／祭 自治会／伝法寺

住所／築上町大字伝法寺 1357 正光寺

岩戸見神社は宇都宮氏ゆかりの神社であり、宇都宮氏は弓の名家でしたが、黒田官兵衛・長政によって滅ぼされました。秀吉が朝鮮出兵の折、弓の名家を滅ぼしたことを悔やんだとされます。昔は氏子の中から射手が選ばれ、竹で編んだ的を作り、農耕馬を綺麗にして紋付袴を着せて行われていたそうです。2009年11月29日築上町伝法寺、岩戸見神社で「流鏝馬」の奉納が、60数年ぶりに行われました。以降、隔年で流鏝馬祭が開催されています。



⑦ 盆綱

分類／祭 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺

8月15日に大人と子供が葛(カヅラ)で作った綱を引き合い、ナタで切ります。子供はその綱を藪に隠すと、大人が探し出し、3回引き合います。元々天保の飢饉の疫病の際に、平癒を願って村が3人になるまで続けると願掛けした事から始まったといわれます。既成の綱を使わず、必ず葛(カヅラ)で作るところから始めるというのは、伝統を守る貴重な形といえます。



⑧ 夏祭り「俵替」

分類／祭 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺 1339

岩戸見神社では、田植え後に水の神に感謝する水神祭、農業神に感謝する貴船祭りが終わった八月の初旬に夏祭りが行われていました。この祭りは記録によると明治43年8月1日『五穀豊穰、病難除御祈禱、並びに説教相勤候間、御区内参拝相成候様、漏なく御通知方御取計下されたく依頼申し上げ候』この文書が各氏子に渡り三昼夜、相撲、講演を行ったことが始まりでした。そして大正15年、創建750年の大祭記念事業として、三昼夜の講演の後「俵替」の神事を行うようになり、それが現在まで続いています。

「俵替」とは、富くじで、三日間の講演が終わると人々は富くじを買い、自分の買ったくじを、他の人のくじと「かえましょう。かえましょう。」と言いながら何人もの人と交換していきます。このことから、「俵替」と言われるようになったそうです。一等の大俵(米俵)が当たると、翌年は小俵(麦装)を奉納しなければなりません。夏祭り、俵替の神事は、まず始めの三日間は、お参りの後、講演を聞きます。三日目最終日、講演の後「俵替」を行います。この富くじの大俵は、厄年の人や快気祝のお礼など、さまざまな人たちから奉納されます。たくさんの景品も用意されます。くじの交換が終わりましたら、いよいよ当選発表です。まず宮司が御参りされた「さい盆」を皆の前に置きます。「さい盆」の中には小さな紙に数字を書いた紙でつくった富くじがのせられています。それを長い中おり(紙)がついた御幣で宮司さんが引き上げて番号を呼びます。景品は後の方になるほど大物になり「俵替」の神事もだんだんと盛り上がっていきます。そして最後に米俵が当たった人は、近所の人達と持ち帰り床の間にそなえます。その夜は近所の人達に酒盛りの接待をします。米一俵分を接待すると良い一年を送ることが出来ますが、一人占めをすると悪い年になるという言い伝えが残っているからです。この神事も、テレビ等の娯楽がない時代は近隣の村から沢山人々がやってきて、とてもにぎやかなものだったそうです。



⑨ 松丸神楽

分類／伝統文化 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

松丸神楽は、築上地域の各神楽講と起源を同じくするようです。明治初期、社家神楽の中断を憂いた岩戸見神社宮司熊谷重房氏より伝承されました。古老の話によれば、中川應吉(新太郎)という熱心で上手な神楽の継承者がいて、伊良原に伝授したという話が伝わっているとのこと。松丸の神楽講がいつ断絶したかについては不明ですが、明治時代だったのではという説があります。

⑩ 松丸の十日相撲(神事のみ)

分類／伝統文化 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

古老の口承によれば、寛政7年(1795)6月、村中の牛馬に疫病が流行して大変困ったので、牛馬の平穏・安泰を祈願し願いが成就するよう7月10日(水神祭)に奉納相撲をとったのが、松丸の十日相撲の始まりと云われています。以降、貴船神社の例祭には神事の後に、城井川の「木の根渕」の水神に供え、拝殿前の土俵で牛馬願の相撲をとります。村が三戸になるまでは続けるという万年願をかけているので、戦時中以外は中断なく続いていました。子ども相撲に移行するまでは、「松丸の十日相撲」は有名であり、多くの地元・地方力士が参加し、他の宮相撲と同じように「割り」最後の三役相撲まで賑やかで盛大に行われました。水神祭で行われていた十日相撲は、開催されなくなって20年前ほど経っていますが、相撲で奉納されていた弓・弦・矢は貴船神社に残っています。

⑪ 河童伝説(河童なぐさめ)

分類／伝統文化 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

城井川の東側の川が大きく曲がっている箇所は、川の流れが悪く、川の水の浅いところと深いところの温度差が激しい状態にありました。(浅いところは水が温かく、深いところは水が冷たい) 昔、川で遊んでいた子どもが心臓麻痺等の水難事故で亡くなってしまい、この事を「河童が連れて行った」と言うようになりました。また、海神社の(現在は鳥居だけが大神神社に移設されている)龍神様にもあり、各地域で似たような話があったそうです。



⑫ 収穫祭(11、12月頃)

分類／祭 自治会／松丸 住所／松丸地区

収穫祭とは新嘗祭の事で、伝法寺地区は11月23日、松丸地区は12月に神事のみ行われています。収穫祭は寒田地区を除く5つの自治会によって、持ち回りで行われています。

⑬ 神幸祭(岩戸見神社、山霊神社)

分類／祭 自治会／上城井地区全体 住所／上城井地区全体

5月4日は築上町上城井地区内の神幸祭の1日目であり、伝法寺岩戸見神社と寒田山霊神社の祭典が行われ、神々が御輿に乗って里帰ります。

岩戸見神社では小学生による楽打ちが奉納され、神楽講の神々に導かれて集落に御輿が鎮座し、夜の20時から神楽講による夜神楽が奉納され、深夜まで里の人々との交流が続きます。神幸祭は、櫛原、上本庄、伝法寺、下本庄、松丸の順で5年に1度、集落が持ち回りで担当しており、櫛原と上本庄の時は櫛原神楽が、伝法寺、下本庄、松丸の時は伝法寺神楽が奉納されます。神幸祭2日目の5日は、それぞれ本宮に向けて御輿を運び、五穀豊穡を願って神事は終了します。

以前は神輿が3体ありましたが、現在は(1体はリヤカーで引っ張り)2体になっています。神輿の神入れは、(以前は着物の袖で隠していましたが)御幣で隠されているため宮柱と宮司しか見る事ができません。その場に「地官」の方も居ますが、見守り役として頭を下げている為に見られません。(「地官」が現在、寒田地区を除く上城井地区に7名います。)

※宮柱は各家で代々受け継がれています。また宮柱と地官を兼任している地区もあります。

寒田地区の山霊神社でも神楽の奉納などが行われ、御輿は山霊神社の麓にある「やまさと」に鎮座します。



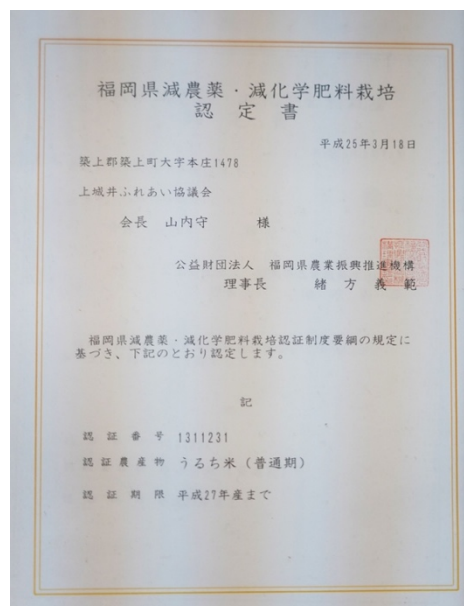
《景観・特産品・その他》

① 清流米(上城井のお米)

分類／特産品 自治会／伝法寺・松丸

住所／伝法寺地区・松丸地区

上城井のお米は美味しいと評判があり、減減米(減農薬・減化学肥料)として県の認証を受けるなど、伝法寺では20年ほどまえから文殊米、松丸では10年ほど前から宇都宮米の名称で売られているお米もあり、ブランド米として地域内外に多くのファンがいます。



② 小学校での楽打ち指導

分類／その他 自治会／伝法寺 住所／伝法寺地区

小学校での楽打ち指導は、1年前を最後に現在は行っていないとの事で、現在は寒田地区での神楽の指導に代わっています。(生徒不足が理由)

小学校3年生から中学校3年生までが神楽の奉納をしています、こちらも人数不足のため存続が危ぶまれています。



《史跡》

① 岩戸見神社

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺 1339

岩戸見神社は、宇都宮氏が関東より勧請した神社です。その後、城井谷 11 ヶ村の氏神と定め、祭礼に神楽が奉納されたと伝えられます。宇都宮氏が入国した当初、岩戸見神社は現在の位置よりも山の上部（清寿山）にありました。建久 6 年（1195）に現在の場所（盛り土）に社殿が遷されました。岩戸見神社では、毎年 5 月 4 日、5 日に伝法寺神楽が奉納されます。

明治初期、郷社岩戸見神社の神職、熊谷房重が熱心に赤幡をはじめ寒田・伝法寺・松丸に神楽を伝授したと云われています。



② つなぎ馬の絵馬（県内最古）

分類／史跡 自治会／伝法寺

住所／築上町大字伝法寺 1339 岩戸見神社

絵馬の馬が逃げ出して田畑を荒らすので、求菩提の山伏に祈祷してもらい、つなぐ綱と餌の草を描き足してもらったと伝えられています。岩戸見神社では、以来、この絵馬を祭神として 12 月初午の日に午まつりが行われています。元和 5 年（1619）の作で、県内最古の神馬図の絵馬です。



※県内最古の絵馬だと判明したのは、福岡市博物館にお貸しした際の学芸員さんの調べによるものです。

③ 正光寺

分類／史跡 自治会／伝法寺

住所／築上町大字伝法寺 1357

曹洞宗のお寺で、その昔、豊前宇都宮氏の祖である宇都宮信房が下野国から文殊菩薩を勧進して開山したのが正光寺の始まりと云われています。その本尊である文殊菩薩は檜材の寄木造りであり、雄々しく力強い姿の獅子に座し、右手に智剣、左手に経巻をいただいた姿は、見るものを圧倒します。毎年2月25日と26日の二日間、智恵の文殊大祭が執り行われ、年に一度の御開帳によりこの文殊菩薩像を拝観することができます。

また9月には珍しい白い彼岸花が境内に咲き誇ることで知られており、「白い彼岸花まつり」は境内内一帯や伝法寺公園で開催されます。



④ 堂山城址

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺

堂山は、城井谷が最も狭まった要所にあり、「一の戸」「遠見番所」と呼ばれ、山頂から周防灘まで一望できます。堂山城址は正光寺の裏手にあり、本丸、二の丸、堀切、土塁、土橋など良好に残り、平成10年の発掘調査で櫓跡と思われる建物の柱穴跡が発見されました。城主は宇都宮氏の被官、伝法寺氏と思われる、冬綱の時代に伝法寺四郎左衛門、鎮房の時代に伝法寺兵部大輔の名があります。麓の正光寺周辺が館と思われます。主郭は山頂にあり、西尾根が堀切で遮断されています。他にも平段が残る曲輪郡なども見る事ができますが、現在は立ち入り禁止になっています。



⑤ 旧竹内家住宅(古民家食庵 伝でん法ぽう寺じ庄しょう)

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺 587

古民家「旧竹内邸」を改修して、故郷の家庭料理が味わえる食事処として平成 29 年 3 月 10 日にオープンしました。(TEL080-1760-3633/金・土・日 11 時～15 時/2 日前までに要予約)



伝法寺は、鎌倉時代に宇都宮信房が九州平定の恩賞として源頼朝から賜った所領です。伝法寺氏は宇都宮氏の重鎮であり、黒田藩がこの地を治めるようになった際に宇都宮氏の家来である事を隠すため、家の周囲に竹が生い茂っていた事から、竹内氏に名称を改めたと云われています。明治 13 年建築の古民家は平成 27 年に竹内家から地域のために役立てほしいと、築上町に寄贈されました。

伝法寺氏の邸宅であったことから、「伝法寺庄」と名付けられています。また、伝法寺という地名については、昔、伝法寺というお寺があったであろうとの事ですが、詳しくは記録に残されていません。

重厚な佇まいの柱や梁のある白漆喰の室内は、山水画の描かれた襖や障子と調和したくつろぎの空間です。地域の主婦の皆さんが、旬の地元食材を最大限に使って滋味深い家庭料理を提供されています。食卓に乗りきらないほどの彩り豊かな品々は目にも嬉しく、歴史ある空間で手作りの絶品料理を頂くというこの土地ならではの豊かな時間が叶います。一度訪れればリピーターになること必至で、限られた営業日と

予約制という事もあり、数ヶ月先まで予約で満席の場合もある程の人気ぶりです。



⑥ 龍神の石畳

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺 587

発掘調査で見つかった石畳は、幅 1.2m、全長 120mにわたり敷石されていました。石畳のそばの自然石に、文久 3 年(1863)の年号と安武手永大庄屋畑源治と庄屋名など碑文が刻まれています。現在の県道は明治中頃に開通したものであり、以前は対岸のこの石畳が唯一の道でした。石畳は埋め戻され保存されています。



⑦ 長谷川邸跡(小笠原藩の刀鍛冶)

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺

本庄上ノ屋敷や伝法寺杉ヶ丸は、武家集団に所属する刀等を製作した鍛冶工房の可能性が考えられます。また伝法寺の長谷川邸遺跡は、幕末の小倉戦争の末、明治 4 年(1871)に小倉小笠原藩の刀鍛冶「長谷川紀政広」が移住した屋敷跡であり、ここで農具を製作する野鍛冶として余生を過ごしました。長谷川紀政広については、親は鉄砲鍛冶でしたが刀鍛冶の修行の末、四国から城井に入国し、小笠原藩(小倉藩)仕え、「政広」の名を貰いました。(刀剣記述によると「政」は名誉ある名称だそうです。)初めて作ったのが、家老の島村志津摩のものだったと伝えられています。長谷川紀政広の子息に女性に短刀、男性 2 人に太刀を授けたそうです。

平成 27 年、幕末から明治時代にかけての日本の炭鉱・鉄鋼業・造船業に関する近代産業遺産が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されました。中でも製鉄に関する史跡は、八幡製鉄所をはじめ北は岩手県から南は鹿児島県まで広い範囲に及んでいます。どれも幕末の動乱に対処するための近代的な武器や軍艦整備に必要な鉄を大量に供給するためでした。

日本に鉄が伝わったのは弥生時代(2300～1700 年前)といわれ、当初は鉄斧等の工具を中国大陆から輸入して使用しました。やがて弥生時代中期(2100～1900 年前)になると、鑄鉄を焼き鍛えることで炭素分を減らして強くする鍛冶技術が生まれ、さらに砥石を使い鋭利な刃物を作るようになりました。築上町では、安武深田遺跡(東九州道の築城 I.C.)でこうした鍛冶を行った住居跡が発掘され、鍛冶炉の周囲から鉄器や砥石等が出土しました。これは日本で最古級の鍛冶遺跡であり、五世紀になり、中国や朝鮮半島からの鉄の輸入が厳しくなると、国内で鉄鉱石や砂鉄から鉄を作る製錬技術が生まれています。こうした鉄の製錬遺跡は、国内では六世紀中頃が最も古く、岡山県や広島県に多く分布しています。町内では松丸 F 遺跡で七世紀後半に砂鉄による鉄製錬が行われましたが、同遺跡では製錬炉跡一基と製鉄に必要な木炭を生産した横口付木炭窯跡(左写真)六基が発掘されています。

鉄素材を加熱鍛錬し鉄製品を作る鍛冶に関連する遺跡は町内では上記の弥生時代にはじまり、古墳～奈良時代の広幡遺跡(水原)、奈良～平安時代の越路貴船遺跡・赤幡森ヶ坪遺跡・船迫小池遺跡、鎌倉・室町時代の本庄上ノ屋敷遺跡・カヂヤ遺跡・伝法寺杉ヶ丸遺跡があり、赤幡森ヶ坪は古代官道に面した官営工房、本庄上ノ屋敷や伝法寺杉ヶ丸は武家集団に所属する刀等を製作した鍛冶工房の可能性が考えられます。

⑧ 生き目不動尊

分類／史跡 自治会／伝法寺 住所／築上町大字伝法寺

本庄の医師・内野東庵先生(1841～1926)は、晩年に目を患っており、その目をいけたのがここ「生き目不動尊」と云い伝えられています。石碑には、「生き目をばここに埋めて置土産しに目見ぬとて泣くな子や孫」という東庵先生の晩年の句が刻まれています。地元青山家の所有する山の中にあるそうで、昔は現在のように木が生い茂っておらず、茅切り場でした。こちらの碑は、東庵先生の医者仲間であった片山氏(片山病院)が建てました。



⑨ 宇都宮氏館跡

分類／史跡 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

江戸時代に書かれた『豊国紀行』や『城井谷絵図』では、「城井取手屋敷跡」「城井鎮房の隠居の宅」と記述されています。館跡は 150m×120m の方形の台地上にあり、全国的にみても大規模な館跡です。発掘調査で幅 7m の空堀跡や、土塁、また 20 棟以上の建物跡、柵列などが発見されました。別名、松丸城とも言われており、地元の方からは「たてんうち」という呼ばれ方で親しまれています。また、かつては子供が泳げる位、堀に水があったようです。



⑩ 大西池(寛文2年用水路)

分類／史跡 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

大西池は、寛文2年(1662)に造築、貯水を始めたという池です。(松丸自治会の云い伝え) 池への給水は雨水や背後の山林からの小川程度あり、溜池の貯水量は少なく、以降、大西池の拡幅が継続されました。同時期に下流地域への用水路として西郷川が施工、供用されました。

文久3年(1863)に龍神の石畳を整備した記録が自然石に刻まれています。明治35年に内野東庵先生が伝法寺に移り住んでおり、数々の生活改善事業を手掛けられました。



⑪ 製鉄所跡

分類／史跡 自治会／松丸 住所／築上町大字松丸

7世紀の箱形の製錬炉跡1基と、横口付木炭窯跡が6基発見されました。砂鉄と木炭を炉の中に入れ、鞆鞆(ふいご)で送風して火力を上げて製錬しました。原料は不純物の多い砂鉄ですが、効率よく鉄を取り出しており、技術の高いハイテク産業遺跡といえます。



⑫ 貴船神社

分類／史跡 自治会／松丸

住所／築上町大字松丸 677

宮司熊谷善伴氏による社伝によれば、本社は古来当地に鎮座していましたが、寛政7年(1795)6月に村中に疫病が流行し、貴船神社と並べて一ノ神祠を創建し、須佐之命を勧請して天疫社を祀ったとされています。慶応2年(1866)5月に境内の大樹が折れて貴船天疫両社殿の屋上に落ち、倒壊したために翌年に再建し、上天疫神社と貴船神社の祭神と合併したと伝えられています。



※隣の地区になりますが、貴船神社から 500 メートル北には旧藏内邸があります。